

ISSN 1341-6952

# 東北大学埋蔵文化財調査年報**22**

東北大学埋蔵文化財調査室  
**2008**

# 東北大学埋蔵文化財調査年報**22**

東北大学埋蔵文化財調査室

2008



## 序

東北大学構内には、仙台城跡二の丸地区をはじめとして、多くの埋蔵文化財包蔵地が知られている。

本書は、平成16年度に東北大学構内で実施した、施設整備に伴う埋蔵文化財調査や、それに関わる整理作業、研究活動などの事業概要をとりまとめたものである。当年度に実施した埋蔵文化財調査は、試掘調査1件と立会調査4件であった。これらの調査の結果、遺跡に影響が及び、本格的な発掘調査が必要となる事業は、幸いなことに無かった。そのため、本書での調査報告は、短いものとなっている。

東北大学構内の試掘調査は、施設整備が計画された区域における遺跡の広がりや、その保存状況などを把握するために実施している。当年度の調査箇所では、結果的に遺構・遺物の発見には至らなかったが、その調査データを公表して、知見を積み重ねていくことは、遺跡の広がりを正確に把握していくために重要な作業である。そのことは同時に、施設整備計画と遺跡保護との調整を図っていくためのデータを蓄積していくことでもある。個々の調査結果は地味なものでも、それらの積み重ねが、大きな成果や課題に結びつく場合もある重要な業務であります。そのような意味で、本書で報告されるデータが活用されていくことを望むものです。

調査の実施から報告書の刊行に至るまで、施設部を始め、大学内外の関係者および関係機関には、多くの御協力を賜った。ここに厚くお礼申し上げる。

東北大学埋蔵文化財調査室

室長 阿子島 香

## 例　言

1. 本年報は、東北大学構内において、東北大学埋蔵文化財調査研究センターが2004年度に行った遺跡調査、ならびに研究成果をまとめたものである。
2. 調査・整理作業は、東北大学埋蔵文化財調査室が行った。
3. 本年報の編集は、阿子島香の指導のもとに、藤沢敦が担当した。
4. 本文は、藤沢敦が執筆した。
- 英文要旨については、藤沢敦が作成し、阿子島香が校訂した。
5. 調査記録は、東北大学埋蔵文化財調査室で保管・管理している。

## 凡　例

1. 方位は真北に統一してある。
2. 図1と図2は、それぞれ国土地理院作成の、2万5千分の1地形図「仙台西北部」と「仙台西南部」、1万分の1地形図「青葉山」を使用した。
3. 川内地区的仙台城跡二の丸地区、および二の丸北方の武家屋敷地区にあたる地域の地形測量図は、仙台市教育委員会の作成による「仙台城跡地形図」(縮尺500分の1)を使用した。
4. 国土座標値を用いる場合には、日本測地系と世界測地系の別を、それぞれ記入した。
5. 引用・参考文献は、巻末にまとめた。また本文中で、「東北大学埋蔵文化財調査年報」を引用する場合は、年報1という形で略記した。

## 東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営専門委員会（2004年度）

|                 |                                |        |
|-----------------|--------------------------------|--------|
| 委員長             | センター長（文学研究科 教授）                | 阿子島 香  |
| 委 員             | 施設整備委員会川内地区協議会協議員（法学研究科 教授）    | 横木 俊哉  |
|                 | 施設整備委員会青葉山地区協議会協議員（情報科学研究科 教授） | 佐々木 公明 |
|                 | 施設整備委員会星陵地区協議会協議員（医学系研究科 教授）   | 里見 進   |
|                 | 施設整備委員会平地区協議会協議員（多元物質科学研究所 教授） | 米田 忠弘  |
| 文学研究科 教 授       |                                | 須藤 隆   |
| 文学研究科 教 授       |                                | 今泉 隆雄  |
| 文学研究科 教 授       |                                | 大藤 修   |
| 東北アジア研究センター 教 授 |                                | 入間田 宣夫 |
| 理学研究科 教 授       |                                | 藤巻 宏和  |
| 工学研究科 教 授       |                                | 飯淵 康一  |
| 総合学術博物館 教 授     |                                | 柳田 俊雄  |
| 施 設 部 長         |                                | 新保 幸一  |
| 幹 事 施 設 部 企画課長  |                                | 佐々木 力  |

## 東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営専門委員会調査部会（2004年度）

|            |                 |        |
|------------|-----------------|--------|
| 委員長        | センター長（文学研究科 教授） | 阿子島 香  |
|            | 文学研究科 教 授       | 須藤 隆   |
| 委 員        | 文学研究科 教 授       | 今泉 隆雄  |
|            | 文学研究科 教 授       | 大藤 修   |
|            | 東北アジア研究センター 教 授 | 入間田 宣夫 |
|            | 理学研究科 教 授       | 藤巻 宏和  |
|            | 工学研究科 教 授       | 飯淵 康一  |
|            | 総合学術博物館 教 授     | 柳田 俊雄  |
|            | 調査研究員（文学研究科 助手） | 藤沢 敏   |
|            | 調査研究員（文学研究科 助手） | 柴田 恵子  |
|            | 調査研究員（文学研究科 助手） | 高木 鴨亮  |
| 施 設 部 企画課長 |                 | 佐々木 力  |

## 目 次

序

例言

凡例

東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営専門委員会

東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営専門委員会調査部会

目次

図目次

表目次

2004年度（平成16年度）事業の概要 ..... 1

|                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1.はじめに ..... 1         | (1)受託研究・共同研究等 ..... 11 |
| 2.運営専門委員会・調査部会 ..... 1 | (2)学会発表等 ..... 12      |
| 3.埋蔵文化財調査の概要 ..... 6   | (3)資料調査 ..... 12       |
| (1)川内地区の調査 ..... 6     | (4)科学研究費採択状況 ..... 12  |
| (2)青葉山地区的調査 ..... 6    | 8.教育普及活動 ..... 12      |
| 4.遺物整理作業 ..... 10      | (1)非常勤講師 ..... 12      |
| 5.保存処理事業 ..... 10      | (2)保管資料の貸出 ..... 12    |
| 6.資料保管状況 ..... 10      | (3)外部からの派遣依頼等 ..... 13 |
| 7.研究活動 ..... 11        | (4)広報活動 ..... 13       |

引用・参考文献

英文要旨

## 図 目 次

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 図1 東北大学と周辺の遺跡 ..... 2 | 図6 理学部・薬学部厚生施設増築に伴う<br>試掘調査区の配置 ..... 9 |
| 図2 仙台城と二の丸の位置 ..... 3 | 図7 理学部・薬学部厚生施設増築に伴う<br>試掘調査状況 ..... 9   |
| 図3 川内北地区調査地点 ..... 4  | 図8 収蔵遺物量の推移 ..... 11                    |
| 図4 川内南地区調査地点 ..... 5  |   |
| 図5 青葉山地区調査地点 ..... 7  |   |

## 表 目 次

|                        |
|------------------------|
| 表1 2004年度調査既往表 ..... 6 |
|------------------------|

## 2004年度（平成16年度）事業の概要

### 1. はじめに

東北大には、仙台市内の各キャンパスに加えて、多くの研究施設がある。これらの各地区構内には、多くの埋蔵文化財が存在している（図1）。特に川内地区は、ほぼ全城が近世の仙台城跡二の丸地区と武家屋敷跡にある（図2）。東北大構内での施設整備等に伴う埋蔵文化財調査については、1983年度に東北大埋蔵文化財調査委員会が組織されて以降、その実務機関である埋蔵文化財調査室が、調査の任にあたってきた。1994年度には、埋蔵文化財調査委員会を改組し、学内共同利用施設としての埋蔵文化財調査研究センターが設置され、調査委員会の事業を引き継いだ。2006年度からは、大学法人化に伴う組織・定員見直しの結果、特定業務組織として、埋蔵文化財調査室へと改組されて現在に至っている。

本年報は、2004年度のセンターの調査および研究教育活動など、各種事業についてまとめたものである。

### 2. 運営専門委員会・調査部会

東北大埋蔵文化財調査研究センターでは、センターの運営に関する重要事項を審議する運営専門委員会と、運営専門委員会の下に埋蔵文化財調査に関する専門的事項を審議する調査部会が設置されており、委員会・部会の審議をもとに運営が進められている。通常は、運営専門委員会は年度当初に一回開催し、そこで年間の事業予定・予算等などの基本的事項を審議している。調査に関わる具体的かつ専門的な事項は、必要に応じて調査部会を開催して審議することとしている。

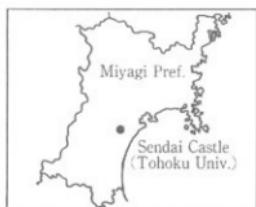
2004年度からの国立大学の法人化に伴い、東北大の学内共同教育研究施設については、教育基盤施設群と学術基盤施設群の2つのグループに大別された。埋蔵文化財調査研究センターは、教育基盤施設群に含まれることとなった。この教育基盤施設群に運営専門委員会が設けられたのに伴い、従来のセンターの運営委員会が運営専門委員会に、専門委員会が調査部会へと改称されている。

2004年度（平成16年度）は、運営専門委員会は1回開催した。当年度は本格的な発掘調査がなかったことから、調査部会は開催していない。運営専門委員会の開催月日・議事内容は以下の通りである。

埋蔵文化財調査研究センター運営専門委員会

- 6月24日 審議事項 (1) センター長について  
(2) 規定の改正について  
(3) 平成16年度埋蔵文化財調査計画について  
(4) 平成16年度センター運営費について  
(5) 平成16年度の整理作業計画について  
(6) 総合学術博物館との統合について  
(7) 調査研究員の兼務について  
(8) その他

- 報告事項 (1) 平成15年度埋蔵文化財調査結果について  
(2) 平成15年度センター運営経費決算について  
(3) 平成15年度の整理作業について  
(4) その他



- 1 : Ruin of Sendai Castle
- 2 : Kawauchi steles
- 3 : Aobayama B Site
- 4 : Aobayama E Site
- 5 : Aobayama C Site
- 6 : Aobayama A Site
- 7 : Aobayama D Site
- 8 : Ashinokuchi Site



- 1 : 仙台城跡 2 : 川内古碑群 3 : 青葉山遺跡B地点 4 : 青葉山遺跡E地点 5 : 青葉山遺跡C地点 6 : 青葉山遺跡A地点
- 7 : 青葉山遺跡D地点 8 : 芦ノ口遺跡 9 : 片平仙台大神宮の板碑 10 : 郡六大日如來の碑 11 : 岩岡城跡 12 : 郡六城跡
- 13 : 郡六建武碑 14 : 沢田遺跡 15 : 郡六御殿跡 16 : 郡六遺跡 17 : 松ヶ岡遺跡 18 : 向山高裏遺跡 19 : 萩ヶ丘遺跡
- 20 : 茂ヶ崎城跡 21 : ニツ沢横穴墓群 22 : 稲ヶ岡B遺跡 23 : 八木山綠町遺跡 24 : ニツ沢遺跡 25 : 青山二丁目遺跡
- 26 : 青山二丁目B遺跡 27 : 穂土手(築跡土手) 28 : 砂押屋敷遺跡 29 : 砂押古墳 30 : 富沢遺跡 31 : 佐崎浦遺跡
- 32 : 金洗沢古墳 33 : 土手内窓跡 34 : 土手内遺跡 35 : 土手内横穴墓群 36 : 三神峯遺跡 37 : 金山窪跡 38 : 三神峯古墳群
- 39 : 富沢窪跡 40 : 裏町東遺跡 41 : 裏町古墳 42 : 原東遺跡 43 : 原遺跡 44 : 八幡遺跡 45 : 後田遺跡 46 : 口遺跡
- 47 : 神流山遺跡 48 : 鶴堂平遺跡 49 : 上野山遺跡 50 : 北前道路 51 : 佐保山東道路

図1 東北大学と周辺の遺跡  
Fig.1 Archaeological sites and Tohoku University

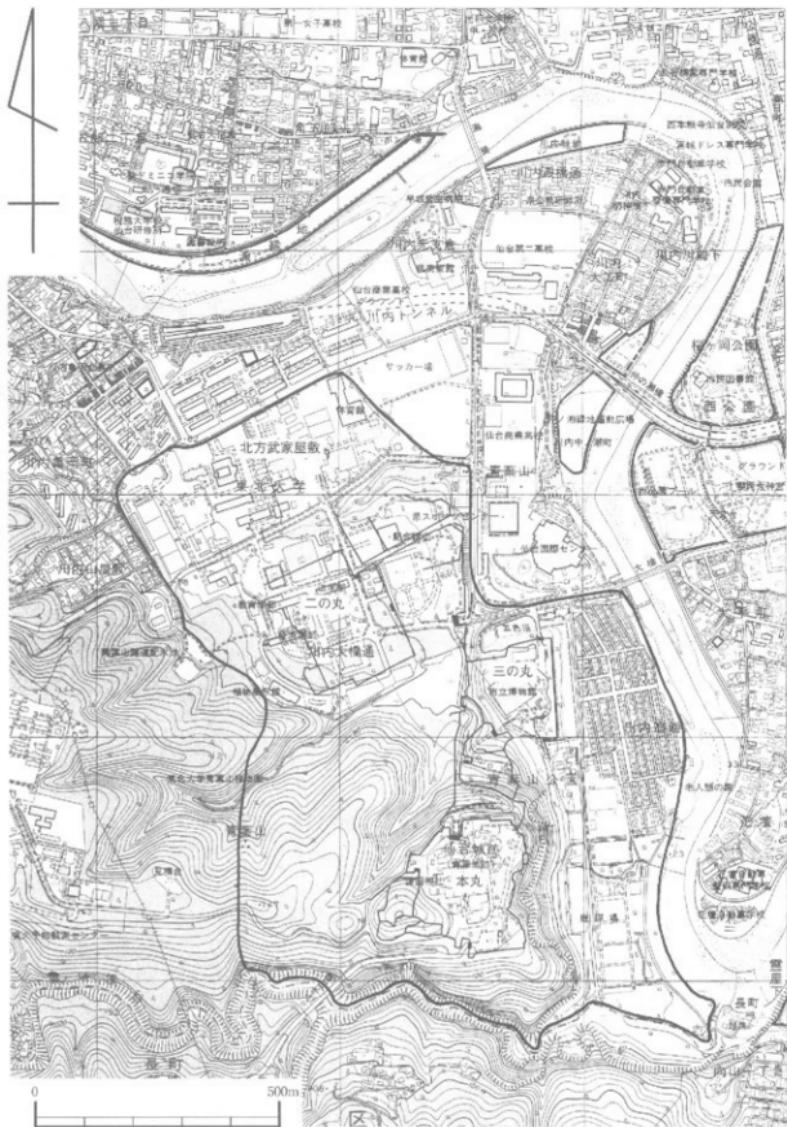


図2 仙台城と二の丸の位置  
Fig.2 Distribution of Sendai Castle



図土標高値は日本測地系

Fig.3 Excavations at Kawauchi-Kita campus (N.M. i.e. Secondary Citadel, BK i.e. samurai residence)

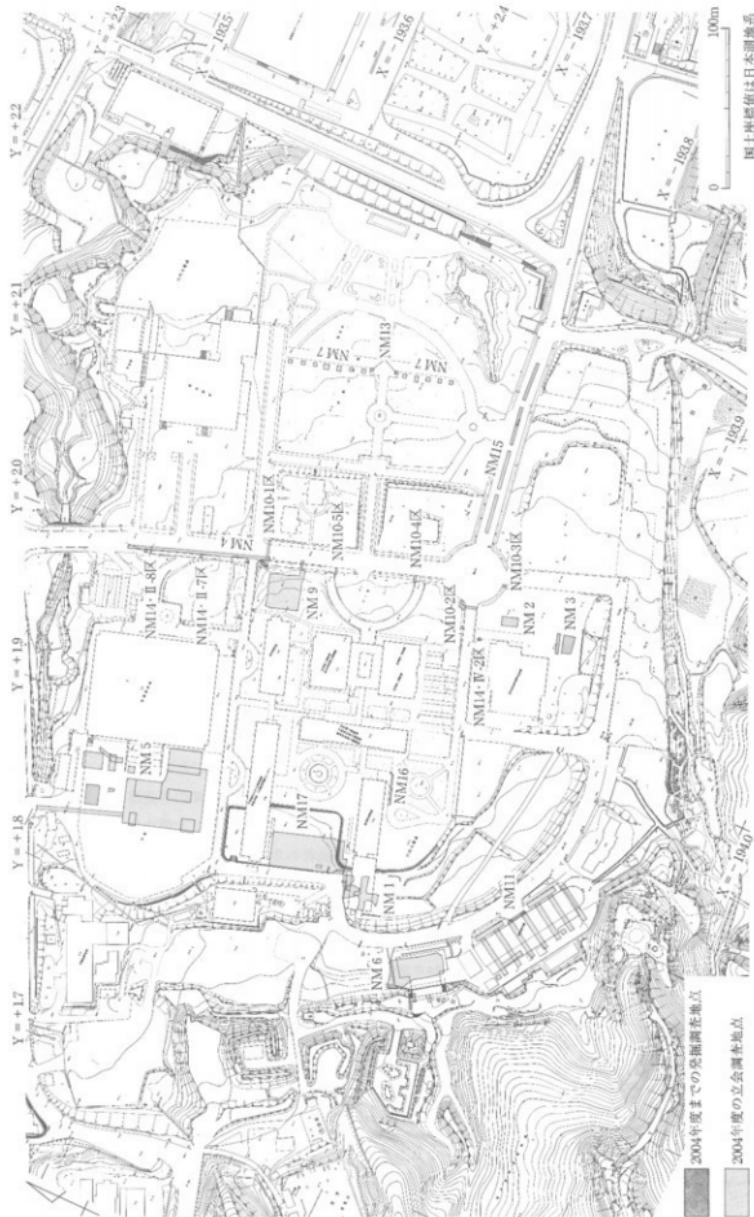


Fig.4 川内東地区調査地点  
Locations of excavations at Kawauchi-Minami campus [NM i.e. Secondary Citadel])

### 3. 埋蔵文化財調査の概要

2004年度は、川内地区・青葉山地区において、試掘調査1件、立会調査4件の、合計5件の調査を実施した。(表1)。

#### (1) 川内地区的調査

川内地区では、立会調査2件を実施した(図3・4)。2件とも、川内北地区での調査であった。

立会調査の1件は、国際文化研究科科学技術交流論講座の井原聰教授による、たたら製鉄実験用の製鉄炉構造に伴う調査である。箱形の製鉄炉の構造に伴い、炉底部分の防湿の目的で、1mの深さで掘削し、砂や木炭などを入れる工事である。炉の構造場所は、二の丸第8地点(1986年度調査・年報4)の西側、二の丸第12地点(1993年度調査・年報11)の北東側にあたる場所である。この2回の調査において、この区域では、近代以降の盛土が3m以上の厚さで存在することが明らかとなっていた。今回の工事による掘削も、近代以降の盛土の範囲に収まり、遺跡への影響はなかった。

立会調査の2件目は、川内北地区に保育所を新築するに伴う調査である。保育所のため、木造平屋建で、基礎形状はブ基礎、基礎掘削の深さも最大55cmと、小規模な掘削で済むこととなった。この掘削深度では、近代以降の盛土の範囲内におさまる可能性が高いと推定されたが、調査例が少ない区域であったため、確定的ではなかった。そのため、掘削中に江戸時代の地層に達した場合には掘削を中止し、現状地盤をかさ上げし、基礎底盤のレベルを上げて建設することとし、立会調査で対処することとなった。工事の結果、掘削は近代以降の盛土の範囲に収まり、遺構・遺物は検出されなかった。

#### (2) 青葉山地区的調査

青葉山地区では、試掘調査1件、立会調査2件を実施した(図5)。

試掘調査を実施したのは、理学部・薬学部厚生施設の増築計画に伴う、青葉山B遺跡の試掘調査である(図6・7)。青葉山B遺跡は、旧石器時代の遺跡として、1983年度から1984年度にかけて、2ヶ所の調査が実施された(年報2)。附属図書館の北青葉山分館新館に伴う調査(AOB1)と、理学部・薬学部厚生施設のための除外施設建設に伴う調査(AOB2)である。調査を報告した『年報2』では、前者を青葉山B遺跡B地点(略号AOB)、後者を青葉山B遺跡F地点(略号AOF)との名称で呼んでいる。調査地点ごとに、アルファベットで地点名称を付けていたためである。しかし、遺跡地図登載の遺跡名称は、いずれも青葉山B遺跡であり、遺跡名称とは齟齬をきたしていた。そのため、遺跡名称に合わせて、前者を青葉山B遺跡第1次調査地点、後者を青葉山B遺跡第2次調査地点と改称している。ただし、実際の調査は、前者の北青葉山分館新館に伴う調査の方が後に実施されている。従来の名称では、B地点がこちらを指しており、それを優先して第1次調査地点とした。

表1 2004年度調査概要表  
Tab.1 Excavations on the campus in the fiscal year 2004

| 調査の種類 | 地区   | 調査地點(略号)                 | 原因                         | 調査期間    | 面積               | 時期 |
|-------|------|--------------------------|----------------------------|---------|------------------|----|
| 試掘調査  | 青葉山北 | 理学部・薬学部厚生施設南側(2004-2)    | 理学部・薬学部厚生施設塔築              | 9/1~9/6 | 20m <sup>2</sup> | -  |
| 立会調査  | 川内北  | 国際文化研究科西棟西側(2004-1)      | 国際文化研究科西棟                  | 8/9-10  | -                | -  |
|       |      | ニュートリノ科学研究センター西側(2004-3) | ニュートリノ科学研究センター<br>データ解析棟新設 | 1/7     | -                | -  |
|       | 青葉山東 | 工学研究科西食堂南側(2004-4)       | 工学研究科厚生施設(西食堂)増築           | 1/7     | -                | -  |
|       | 川内北  | 留学生センター西側(2004-5)        | 川内保育所新館                    | 3/15    | -                | -  |



Fig.5 圖5 青葉山地区調査地点  
Fig.5 Locations of excavations at Aobayama campus

これら両地点では、旧石器時代の石器とされるものの出土が報告されていた。しかし、この青葉山B遺跡と、隣接する青葉山E遺跡の旧石器時代資料については、ねつ造された危険性が排除できず、歴史資料としては利用できないことが明らかとなっている（東北大學埋蔵文化財調査研究センター2003）。そのため両遺跡とも、旧石器時代の遺跡としての登録は抹消されている。ただし、青葉山B遺跡では、第1次調査地点においてフ拉斯コ状土坑が検出され、縄文土器・土師器や石器が出土していることから、縄文時代以降の遺跡として遺跡地図に登載されている。青葉山E遺跡では、縄文時代早期を中心として、多数の縄文時代以降の遺構・遺物が検出されており、こちらも縄文時代以降の遺跡として遺跡地図に登載されている。

青葉山B遺跡第1次調査地点については、「年報21」までの青葉山地区の調査地点を示す図では、「工事対象となつた範囲全体を示してきた。しかし実際に調査を実施した範囲は、工事対象範囲の全域には至っておらず、これより狭い範囲である。本年報の図6では、実際に調査を実施した範囲を示しており、図5も同様に直したものである。なお、この作業の過程で、「年報2」の図3に示された、第1次調査地点のグリッド配置のための基準線の方向が間違っていることが判明した。図6は、残されていた原図に基づいて、調査した範囲を示し直したものである。

今回の調査は、理学部・薬学部厚生施設の増築計画に伴い実施した試掘調査である。既存の厚生施設の南側に沿って、増築する計画であった。工事予定箇所は、段丘面の端部に近く、南側の沢に向かって下っていく急斜面に近い場所であり、地層が安定して堆積していない可能性も考えられた。また既存建物建設時に整地されていることも考えられたため、遺跡の状況を把握するための試掘調査を実施することとした。

調査は、増築予定範囲に合わせて、2m×2mの調査区を5ヶ所設けて行った。表土と新しい盛土を重機で除去した後、手掘りで精査を行ったが、いずれの調査区においても、現在の地表面から80cm～100cmの深さまで新しい盛土が統一していた。この盛土の直下からローム層となっており、縄文時代と考えられる地層は残っていないかった。ローム層への漸移層も確認できなかった。これらの点から、既存建物建設時の整地作業の際に、一旦削平された上で、新しい盛土が施されたものと考えられる。盛土下のローム層は、青葉山地区一帯で確認できる基本層序と対比することは困難であった。斜面に近い場所のため、再堆積した地層である可能性も考えられる。このように、今回の増築予定区域では、遺跡が残存している可能性は極めて低いものと判断されることから、それ以上の調査は行わないこととした。

立会調査を実施したのは、理学研究科・薬学研究科等の所在する青葉山北キャンパスが1件、工学研究科等が所在する青葉山東キャンパスが1件であった。

青葉山北キャンパスで実施した立会調査は、ニュートリノ科学研究センターのデータ解析棟新館に伴うものである。ニュートリノ科学研究センターの西側には、軽量鉄骨平屋建の建物が建てられていたが、これを取り壊し、その場所に軽量鉄骨2階建のデータ解析棟を建設する工事である。既存建物の建設時に整地作業がなされている場所であり、整地作業の際に削平されている可能性が高いと考えられる区域であるため立会調査とした。なお調査場所は、周知の遺跡である青葉山B遺跡の範囲からは外れる隣接地であるため、学内措置として立会調査を実施した。立会調査の結果、表土直下にローム層が検出され、縄文時代の地層は確認されず、遺物も出土しなかった。

青葉山東キャンパスで実施した立会調査は、工学研究科の厚生施設である西食堂の南側に、食堂を増築する工事に伴う調査である。周知の遺跡の範囲外ではあるが、ローム層が良好に保存されている区域のため、学内措置として立会調査を実施した。表土直下でローム層が検出され、縄文時代の地層は確認されなかつた。遺構・遺物は発見されなかつた。



図6 理学部・薬学部厚生施設増築に伴う試掘調査区の配置  
Fig.6 Location of trial trenches at Aobayama-Kita campus



図7 理学部・薬学部厚生施設増築に伴う試掘調査状況  
Fig.7 Views of trial trenches at Aobayama-Kita campus

#### 4. 遺物整理作業

2004年度は、「東北大學埋蔵文化財調査年報」18を刊行した。2000年度（平成12年度）に実施した調査の成果をとりまとめたものである。整理作業は、前年度の2003年度では終了していたが、予算上の問題で、印刷刊行が先送りとなっていたものである。掲載した調査報告は、以下のとおりである。

##### 2000年度（平成12年度）調査分

###### 仙台城跡二の丸第17地点（文科系4学部総合研究棟新館）に伴う調査

整理作業としては、2件の作業を併行して行った。1件目は、2001年度に調査を行った、マルチメディア総合研究棟新館に伴う仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（B K 7）の出土遺物の整理作業である。江戸時代の各時期の、多種多様な遺物が大量に出土している。当年度は、各種遺物の分類・接合・集計作業や、木製品や陶器などの実測作業を実施した。もう1件は、2001年度と2002年度の2ヶ年にわたって調査を実施した、理学研究科研究実験棟（3期）新館計画に伴う青葉山E遺跡第7次調査（A O E 7）の出土遺物の整理作業である。縄文時代早期・中期・晚期の土器・石器が多数出土している。当年度は、縄文土器・石器の分類・集計などの作業を実施した。

#### 5. 保存処理事業

東北大學埋蔵文化財調査研究センターでは、仙台城跡二の丸出土遺物を中心に、木製品・漆塗製品・金属製品など、保存処理を必要とする遺物を多数保管している。この内、木製品と銅製品については、当センターで保存処理を進めできている。木製品については、1997年度以降、糖アルコール（ラクチトール）を利用した処理を行っている（年報16）。

2004年度は、前年度から開始した、仙台城跡二の丸第17地点（2000年度調査・NM17）の出土木製品の処理を継続して実施した。その結果、年度末までに、処理を終了させることができた。これによって、木製品については、2000年度調査分まで保存処理が終了したこととなる。ただし、漆塗製品については、未処理のまま保管する状態が続いている。懸案となっている。

#### 6. 資料保管状況

東北大學埋蔵文化財調査研究センターでは、ほとんどの遺物は容量30.3リットルのコンテナ（ポリプロピレン製・サンボックス#32）に収納している。このコンテナに入らない大型のものについては、さらに大きなコンテナや、適宜木箱を作成して収納している。全体の遺物総量を把握するために、容器の大小にかかわらず、箱の数で数量を管理している。ただし、木製品や金属製品など保存処理を行う必要のあるものは、別に保管しているため、これには含まれていない。当センターの前身である東北大學埋蔵文化財調査委員会が発足した1983年度からの、遺物総量の推移を箱数で比較したのが、図8である。

2004年度末時点で、当センターで保管している遺物総量は2,733箱で、前年度からの増減はなかった。今年度は、遺物が出土した調査がなかったため、箱数の増加はない。2001年度に調査を実施した、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点の整理作業と、2001年度と2002年度の2ヶ年で調査を実施した理学研究科研究実験棟（3期）新館計画に伴う青葉山E遺跡第7次調査の整理作業が継続中のため、整理終了分として新たにカウントしたものはない。そのため、全体の箱数の内、2,242箱が整理・報告済みで、未整理は491箱となる。整理・報告済みのものの比率は82.0%である。

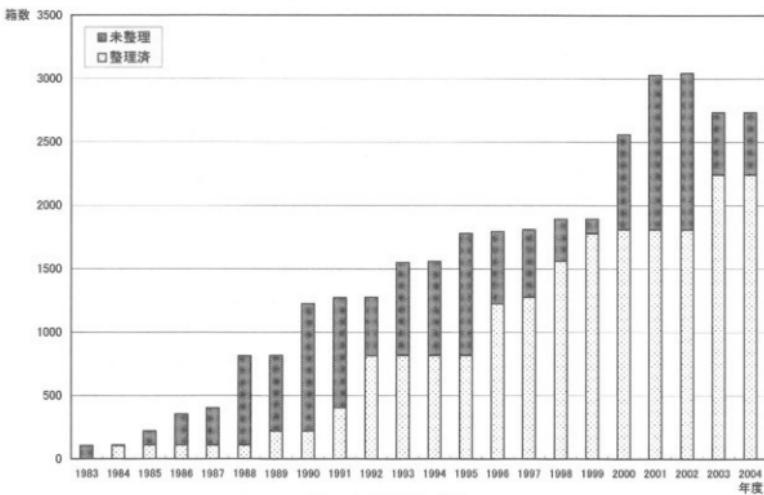


図8 収蔵遺物量の推移  
Fig.8 Graph showing transition of amount of artifact in storage (showed by number of case)

## 7. 研究活動

### (1) 受託研究・共同研究等

2004年度は、下記の受託研究1件を実施した。これは2003年度からの継続事業である。

受託者：岩手県山田町長 沼崎喜一（担当：教育委員会社会教育課文化係）

研究課題：房の沢古墳群出土鉄製品の保存科学についての研究

研究目的：山田町房の沢古墳群から出土した鉄製品を恒久的に保存するため、有効な保存処理方法（樹脂含浸による強化と修復）の研究をおこなう。

研究経費：525,000円

岩手県山田町の房の沢古墳群は、8世紀を中心に築造された末期古墳で、豊富な鉄製品が出土している。1996・1997年度に発掘調査され、出土鉄製品は、1997年度に保存処理が施されていた。しかし、脱塩処理が不充分であったため、その後の経過観察によって進行性の腐食生成物が確認され、再処理が必要な状態となっていた。これらの鉄製品には、木質・繊維・漆など有機質が多数付着して遺存しており、通常の方法では再処理が困難である。そのため、東北芸術工科大学の松井敏也講師・手代木美徳氏と協力しつつ、同古墳群出土鉄製品の内の5点の鉄刀について、再処理方法を検討し再処理を実践することを、当センターが受託研究として担当することになった。この受託研究は2ヶ年にわたるもので、その2年目として、鉄製品への樹脂含浸による強化方法および修復方法の検討と、これら作業の実施を当年度の研究課題とした。

樹脂含浸は、通常のアクリル系合成樹脂を減圧含浸させたが、小型真空ポンプでの作業が可能となるよう、資料の大きさに適合させた塩化ビニール製パイプを利用した含浸容器を設計・製作して作業にあたった。欠損部分の補填はエポキシ系パテで行ったが、充填部分は、できるだけ少なくなるよう工夫して作業した。

## (2) 学会発表等

センターの業務にかかわる、学会での研究発表等としては、次の発表を行った。

- ・平成16年度宮城県考古学会総会・研究発表会 2004年5月15日 於：東北学院大学

「木簡から見た仙台城と仙台藩領」 発表者：柴田恵子

2001年度に調査を実施した、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点では、巨大なゴミ穴から、18世紀前葉の享保年間の木簡が多数出土した。その後の整理作業によって木簡の概要が判明し、仙台城二の丸から排出され、北側に隣接する武家屋敷地の空き屋敷を利用して、廃棄された木簡群であると考えられることが明らかとなってきた。その多くは、仙台藩領内から仙台城に運び込まれた荷物に付けられた荷札と考えられるものであった。これらの検討結果については、前年度の木簡学会においても報告していたが、今回は仙台藩領内における物資の動向に焦点をあてて、地域学会において発表したものである。

## (3) 資料調査

センター業務に関わる資料調査等としては、以下の2件で、それぞれ担当する調査研究員が出席した。

- 2004年12月15～16日 保存科学研究集会「織染織文化財の世界－保存科学をキーワードとして－」

於：奈良文化財研究所 柴田恵子

- 2005年1月29～30日 江戸遺跡研究会第18回大会「江戸時代の名産品と商標」

於：江戸東京博物館 柴田恵子・高木暢亮

## (4) 科学研究費採択状況

2004年度における、当センター調査研究員の科学研究費等の採択は、次のとおりである。

- 藤沢 敦 科学研究費補助金 基礎研究(C)(2)(代表・権統)

「小規模墳の消長に基づく古墳時代政治・社会構造の研究」

- 藤沢 敦 福井学術文化振興財团研究助成(代表)

「C R法を活用したエミシガラス玉の研究」

## 8. 教育普及活動

### (1) 非常勤講師

2004年度に、当センターの調査研究員で、非常勤講師を担当した者はなかった。

### (2) 保管資料の貸出

当センター保管の資料の貸出依頼等としては、次のとおりであった。

- ・貸 出 先：仙台市教育委員会 「国史跡指定記念 仙台城展－政宗が築いた仙台城－」

貸出資料：仙台城跡二の丸出土陶器3点・調査状況写真4点

貸出期間：2004年10月15日～10月26日

- ・貸 出 先：仙台市博物館 「仙台市史 通史編5 近世3」への写真掲載

貸出資料：仙台城跡二の丸出土陶磁器27点の写真

- ・貸 出 先：仙台市教育委員会 「仙台市文化財パンフレット 仙台の遺跡(改訂版)」への写真掲載

貸出資料：仙台城跡二の丸出土遺物・調査状況、芦ノ口遺跡調査状況 写真4点

- ・貸 出 先：北上町史編さん委員会 「北上町史」への写真・図面掲載

貸出資料：仙台城跡二の丸第5地点出土木簡写真・図面各1点

・貸 出 先：仙台市博物館 『仙台市史 通史編1 原始（改訂版）』への写真掲載  
貸出資料：青葉山E遺跡出土石器写真1点

#### (3) 外部からの派遣依頼等

当センターの業務に関わって、あるいは調査研究員の専門領域に関わる事項で、外部から派遣等の依頼があったのは、次のとおりであった。

担当者：藤沢教

|             |  |
|-------------|--|
| 2004年6月15日  | 平成16年度第1回大安場古墳整備指導委員会  |
| 2004年11月29日 | 平成16年度第2回大安場古墳整備指導委員会  |
| 2005年1月29日  | 仙台市富沢遺跡保存館地底の森ミュージアム友の会講演会<br>講師「仙台平野の古墳が語る歴史」                   |
| 2005年1月31日  | 平成16年度第3回大安場古墳整備指導委員会  |
| 2005年2月11日  | 岩手考古学会第33回研究大会 講演 於：山田町中央公民<br>「『末期古墳』と後の『古墳』－新たな概念と用語を紹ぎ出すために－」 |

担当者：高木暢亮

|            |   |
|------------|---|
| 2004年11月7日 | 仙台市富沢遺跡保存館地底の森ミュージアム友の会講演会<br>講師「墓からみた弥生文化」 |
|------------|---|

#### (4) 広報活動

2004年度は、特に広報活動は行わなかった。

## 〈引用・参考文献〉

- 仙台市教育委員会 1994 『仙台市青葉区文化財分布図』
- 仙台市教育委員会 1995 『仙台市太白区文化財分布図』
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1985 『東北大学埋蔵文化財調査年報1』
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1986 『東北大学埋蔵文化財調査年報2』
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1990 『東北大学埋蔵文化財調査年報3』
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1992 『東北大学埋蔵文化財調査年報4・5』
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1993 『東北大学埋蔵文化財調査年報6』
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1994 『東北大学埋蔵文化財調査年報7』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1997 『東北大学埋蔵文化財調査年報8』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1998 『東北大学埋蔵文化財調査年報9』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1998 『東北大学埋蔵文化財調査年報10』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1999 『東北大学埋蔵文化財調査年報11』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1999 『東北大学埋蔵文化財調査年報12』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000 『東北大学埋蔵文化財調査年報13』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2001 『東北大学埋蔵文化財調査年報14』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2001 『東北大学埋蔵文化財調査年報15』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2001 『東北大学埋蔵文化財調査年報16』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2002 『東北大学埋蔵文化財調査年報17』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2003 『17宮城県仙台市青葉山B 18宮城県仙台市青葉山E』
- 『前・中期Jō石器問題の検証』pp.140~132 日本考古学協会
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2005 『東北大学埋蔵文化財調査年報18』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2006 『東北大学埋蔵文化財調査年報19第1分冊』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2006 『東北大学埋蔵文化財調査年報20』
- 東北大学埋蔵文化財調査室 2007 『東北大学埋蔵文化財調査年報19第3分冊』
- 東北大学埋蔵文化財調査室 2007 『東北大学埋蔵文化財調査年報21』
- 宮城県教育委員会 1998 『宮城県遺跡図鑑』宮城県文化財調査報告書第176集

REPORT  
OF THE ARCHAEOLOGICAL RESEARCH ON THE CAMPUS OF  
TOHOKU UNIVERSITY  
Vol.22, March 2008

The Archaeological Research Office  
On the Campus, Tohoku University  
Katahiracho, Aoba Ward, Sendai 980-8577 JAPAN

Summary

On the Campus of Tohoku University, a lot of sites are known. Among them, Sendai Castle is the most famous and largest one. Almost all of the south part of Kawauchi campus is located on its secondary citadel area. The north part of Kawauchi campus is located on the sites of samurai residences. Aobayama campus includes Initial Jomon site. In Japan, if existing circumstances need to be changed in the known site area, excavation research on the buried cultural properties must be carried out. The Office mainly carries out salvage excavations of archaeological sites on campus.

This volume carries reports of excavations and activities which were conducted by the Archaeological Research Center on the Campus, Tohoku University in the fiscal year 2004.

In 2004, the Center carried out one trial excavation on Aobayama campus, and confirmation of presence or absence of archaeological remains at the site of four places of constructions. At the trial excavation of Aobayama-B site which was on Aobayama campus, we could not find any feature or remains. This volume includes reports about results of confirmation work with constructions, and activities which were conducted by the Center such as analyses, conservation work of artifacts and joint researches.

## 報告書抄録

| ふりがな          | とうほくだいがくまいぞうぶんかざいちょうさねんぼう                   |       |       |             |              |                           |                        |                         |
|---------------|---|-------|-------|-------------|--------------|---------------------------|------------------------|-------------------------|
| 書名            | 東北大学埋蔵文化財調査年報                               |       |       |             |              |                           |                        |                         |
| 開書名           |   |       |       |             |              |                           |                        |                         |
| 巻次            | 22  |       |       |             |              |                           |                        |                         |
| シリーズ名         |   |       |       |             |              |                           |                        |                         |
| シリーズ番号        |   |       |       |             |              |                           |                        |                         |
| 編著者名          | 藤沢 敦  |       |       |             |              |                           |                        |                         |
| 編集機関          | 東北大学埋蔵文化財調査室                                |       |       |             |              |                           |                        |                         |
| 所在地           | 〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平二丁目1-1 TEL022-217-4995 |       |       |             |              |                           |                        |                         |
| 発行年月日         | 西暦2008年3月31日                                |       |       |             |              |                           |                        |                         |
| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地                                 | コード   |       | 北緯          | 東経           | 調査期間                      | 調査面積<br>m <sup>2</sup> | 調査原因                    |
|               |   | 市町村   | 遺跡番号  | (世界割地系)     |              |                           |                        |                         |
| 青葉山B遺跡        | 宮城県<br>仙台市<br>青葉区荒巣<br>字青葉6-3               | 04100 | 01373 | 38° 15' 30" | 140° 50' 20" | 2004.9.1~9.6              | 20                     | 理学部・薬学<br>部厚生施設増<br>築計画 |
| 所収遺跡名         | 種別  | 主な時代  | 主な遺構  |             | 主な遺物         | 特記事項                      |                        |                         |
| 青葉山B遺跡        | 散布地   | -     | なし    |             | なし           | 縄文時代に相当する地層<br>は削平され遺存せず。 |                        |                         |

---

---

**東北大学埋蔵文化財調査年報22**

平成20年3月31日

発行 東北大学埋蔵文化財調査室

〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1  
東北大学生命科学研究所内  
TEL 022 (217) 4996

印刷 株式会社 東北プリント  
TEL 022 (263) 1166

---

---